



卒業式 学校長式辞

今年の冬は、例年になく大雪に見舞われ、高く積もった雪に、北国の厳しい自然を感じました。暦も弥生を迎え、日一日 寒さが和らぎ、春の気配を感じる今日。福井野中学校を巣立っていく、128名の3年生の皆さん。

御卒業おめでとうございます。

また、PTA会長様をはじめ、地域や町内会の皆様、校区の小学校の校長先生など、多くのご来賓の皆様、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに第43回卒業証書授与式を行うことができますことに、厚くお礼申し上げます。

さて、3年生の皆さん。皆さんが生まれてから15年の月日が経ち、今日、大きな節目を迎えました。この15年を振り返ると、自然のもつ力の大きさ、様々なつながりのもとで成り立つ暮らし、当たり前前の日常のありがたさ等、自然災害やパンデミック、時代の大きなうねりから多くを学び、生きていく上で本当に大切にしたいことは何なのかを問い続け、歩んできた日々でした。

時代の転換点ともなる15年間を生きてきた3年生の皆さんには、この時代を生きる若者だからこそ、感じ、学び、考え、身に付けた、見方や考え方、価値観があると感じています。

中学校3年間の心に浮かぶ場面を思い出してみましょう。例えば、小学生の頃から、皆で踊ってきたジンギスカン。皆で楽しむことが大好きな皆さんは、見学旅行のレクリエーションでも皆でわいわいと練習し、その笑い声は校舎の空に広がりました。当日はあいにくの雨模様でしたが、室内で笑顔いっぱい踊ったと聞いています。また、最後の合唱発表会でも、2階フロアに響き渡る歌声や歓声に、私は胸が熱くなりました。

皆さんは、多くの人に支えられ生きていること、その尊さをよくわかり、仲間同士寄り添いあい、肩を組んで、毎日を過ごしていました。先生方に導かれながら、良い居場所づくりを自分たちで進め、たくさんの気づきがあったことでしょう。

中学時代は、初めて悩むことがあり、己と向き合い、己のことにひたむきになる時期です。時には、周りが見えなくなることがあったかもしれません。

ですが、「自分の少しの行動が共に暮らす人々にもつながっている」と想像する力が、皆さんにはありました。

幸せに生きるための土台を、皆さんは作ってきました。私は、皆さんのことを心から誇

りに思います。

そんな愛すべき皆さんに、臚（はなむけ）の言葉を送ります。

『我は咲くなり』 （武者小路実篤）

「天与の花を咲かす喜び 共に咲く喜び 人見るもよし 人見ざるもよし 我は咲くなり」

自分を花に例えた言葉です。訳すると「天から与えられた自分自身を花咲かす喜びがある。他者と共に咲く喜びがある。そして、人が自分を見ている、見ていなくても、構わない。私は、咲きます。」

一人一人が、かけがえのない命を、自分らしく、凛とした姿勢で生きていけばいい。そんな思いが込められています。

さあ、これから新たな環境で、新たな挑戦が始まります。未だ知らない自分に出会う、大冒険の始まりです。大冒険の中で、これからを生きる皆さんに目指してほしいのは、「持続可能な社会」です。「今の幸せだけでなく、これからの未来の幸せも考え、誰一人取り残さず、互いを活かし合って生きていく」。何を正解にしていくかは、皆さんにかかっています。様々な方法で人の輪を作り、互いを補い合いながら、「ちっぽけな自分。けれども、かけがえのない自分」を花咲かせ、命を活かしきることを願います。

皆さんは今日、義務教育九年間の全過程を修了します。改めて、その努力を称えるとともに、皆さんの活躍を心から祈っています。

最後になりましたが、保護者の皆様に申し上げます。今日まで、お子様を大切に育てられ、こうして立派に卒業を迎えられましたことに、心からお喜び申し上げます。

これまで、お子様が「未来をめざし、豊かな社会を拓く」資質と力を育むべく、全職員で、心を一つに取り組んでまいりました。保護者の皆様におかれましては、時には学校に対する様々な想いをもたれたこともあったかと思えます。しかし、いつも最後は、保護者の皆様の深いご理解とご支援をいただいたお陰で、今日まで、お子様とともに学校も、日々成長することができたと、感謝の気持ちでいっぱいでございます。全職員を代表して、お礼を申し上げます。

明日からお子様は、それぞれの道を歩いていくことになります。私どもも、いつまでもお子様の健やかな成長を願い、応援団であり続けたいと思っております。

保護者の皆様、そして地域の皆様に、今後とも、本校の教育に対する 一層の御理解と御協力を重ねてお願い申し上げ、式辞といたします。

卒業生の皆さん、本日は誠にありがとうございます。

令和8年3月13日
札幌市立福井野中学校長 長尾 美保子